

平成23(2011)年11月5日第111号

# 学校だより

## 読書について・・・①

過日、ある書物の中で「私の読書遍歴」(波多野完治)と題する記事を読みました。ご存じのように波多野完治氏は心理学者であり、日本の心理学の世界に大きな功績をなした学者です。この「私の読書遍歴」の中で自らの読書の形態について次のように振り返っています。少しですがその概略を紹介します。



### 15歳のころまでは「楽しみ読書」

(前略) 小学校の3年生のときから、わたしだの、わたしと同クラスにいた永井龍男(文化勲章受章・小説家)だのを担任してくださった先生が、たいへんな読書好きで、また、多少文学青年でもあったので、雨の日(つまり、体操の出来ない日のこと。昔は雨天体操場というものさえない学校が多く、あっても小さく、狭いものであった)などに「呉越談義」の話をしてくださったり、作文(綴り方)の時間に、幸田露伴の文章を朗読して、名文を味わわせてくださったりした。

(そして、この経験をきっかけにして、「日本少年」や「少年」を読む中で色々な作者と出会い、また、それらの著書を読む事になりました。後略)

### 18歳からは「教養読書」

(前略) 教養読書はかなりやった。ただしこれも種をあかせば先生があった。小林秀雄(文化勲章受章・昭和期の評論家)である。これがわたしの高校の同級で、高校2年のころ、偶然同じ方向から電車で通学することとなり、彼に影響された。小林秀雄と永井龍男。この二人の文化勲章受章者と同級となり、それに影響された、ということは、わたしのような、平凡な人格にとっては、何物にも代えがたい人生の機会であって、わたしの人間性を大きくつちかってくれたものである。

(中略) この教養読書の期間はわずか3年であったにもかかわらず、わたしのその後の読書生活を大きく変えることとなる。後略)

### 学問の世界に入る専門読書

(前略) わたしは、高校入学のころ、すでに心理学科を志望することにきめていた。(中略)。で、高校時代に、少しは心理学の本も読んだ。これは、わたしにとっては、「専門読書」のはじまりといってもよいかもしれぬ。(専門読書の内容について、縷々記載。中略)

## ヒューストン日本語補習校

Japanese Educational Institute of Houston

12651 Briar Forest Drive, Suite 105, Houston, Texas 77077  
Tel. 281-531-6743 / Fax. 281-531-6795 (事務局 火~金曜日)  
Tel. / Fax. 713-973-0659 (職員室 土曜日のみ)

E-mail: jls@jeihouston.org Home Page: www.jeihouston.org

わたしの「教養読書」の期間がたいへんに短い。つまり、哲学的教養が不足していたわけで、卒業後、ピアジェ(心理学者)をやりながら、哲学書を読むことが、かなり長くつづいた。教養の不足を「生活」しつづおぎなっていたわけだが、これはピアジェ理解にかなり訳だった。つまり、教養読書が専門読書の役をしたのである。(後略)。

### 大学定年後は「ゼニ読書」

わたしは66歳で大学をやめた。定年後は、一定の職につかず、できることなら、恩給(年金)と文筆で食っていくのがわたしの心づもりであったが、幸か不幸か、大学をやめると前後して「心筋梗塞」を患い、過激な仕事は一切いけない身体になった。つまり、本でも読み、また書く以外に、仕事がない状態になったわけで、おかげで、半分無理やりに机に釘づけにされる身分になった。したがって、これ以後の読書は、多く注文に応じて書評を書き、またわたしの思うところをいうための読書になる。これを仮に「ゼニ読書」と呼ぶことにする。

「ゼニ読書」は、本の好きなわたしにとっては、まことに願ってもない仕事で、わたしはこれに精を出した。(中略)。

病気以後、読んだ本の数は多い。大体1年に100冊ぐらい読んでいた。つまり、3日か4日に1冊ぐらい読んでいた。日本語の本だと1日か2日で1冊おわるが、外国語の本だと2週間かかる。これらを全部こみにして、1年に100冊というわけである。15年ほど、こういう仕事をつづけたので、その間に読んだ本は1500冊ほどになる。

「ゼニ読書」という形で、「教養読書」「たのしみ読書」「専門読書」などが、みな一つになることになった。なんでも職業にするとつまらなくなる、というが、読書にかぎってそういうことはない。(中略、そして、1500冊の本の中で印象の深かった本として次の書名をあげている。)

★「大村はま国語教室」全15巻、筑摩書房刊

★アレクサンドル・デュマ「ダルタニアン物語」  
全11巻、鈴木力衛訳

★ルビンシテイン「心理学の基礎」吉岡章宏ら訳  
全4巻、明治図書

そして、教訓として「良書と悪書の区別はない」「自分に合う本と合わない本がある」「集団読書のすすめ」をあげている。・・・以下この三点は次号に掲載。

平成23年度  
第30回補習授業校派遣教員研究協議会報告

10月24、25日の2日間日にわたって、ロサンゼルスで標記の会議が開催されました。この会議は毎年1回開催され、世界中の派遣校長が出席すると共に文部科学省、外務省、公益財団法人・海外子女教育振興財団等が指導助言者として参加するものです。

会議は「補習授業校における経営及び運営の実情についての情報交換や今日的課題についての研究協議を行い、各補習授業校の改善・充実に資する。」ことを目的とし開催されています。

以下、会議の概要について報告致します。

10月24日(月)

I 開会式

1. 開会挨拶

ロサンゼルス補習授業校あさひ学園池田幸一校長  
ロサンゼルス補習授業校あさひ学園服部啓隆理事長

2. 来賓挨拶

在ロサンゼルス日本国総領事館 新美 潤 総領事

II 研修1(講話)

1. 外務省 津田 進 領事(在ロサンゼルス日本国総領事館)
2. 文科省 麻生政人係長(国際教育課教職員給与係)
3. 文科省 首藤弘明係長(国際教育課施設指導係長)
4. 公益財団法人 中村雅治理事長(海外子女教育振興財団)
5. 全海研 滝 多賀雄会長(国際理解教育研究協議会)

III 研修2(研究協議会全体会)

1. 研究協議発表・フィラデルフィア日本語補習校  
「補習校をとりまく人々のよりよい相互関係をもとめて(保護者の勉強会を通して)」
2. ボストン補習授業校  
「保護者のニーズと補習授業校としてのスタンス」

10月25日(火)

III 研修3(研究協議会分科会・一人派遣分科会)

1. ローリー日本語補習校  
「教育向上と日本文化の伝承」
2. シンシナティ日本語補習校  
「安全かつ充実した学校教育を展開するために」

IV 研修4(講話)

1. 日系移民  
「アメリカにおける日系人の歴史と日米関係」

V 照会事項全体会・質疑応答

VI 講評(外務省、文科省、公益財団法人等)

VII 次期開催地挨拶(東部地区)

中島校長所感  
各補習校の発表及び多くの情報交換をしましたが、各校共に設立経緯の違いから派生する種々の課題を乗り越えるべく工夫を凝らしていました。それらを我がヒューストン日本語補習校の現状に照らし合わせ、本校は最先端を歩んでいると実感しました。

〈要注意・風邪が流行しています〉

季節の変わり目には、よく風邪が流行します。本校の園児、児童生徒も罹患して欠席する人が出てきています。インターネットからの受け売りですが、風邪予防で気をつけたいことを箇条書きしてみました。

【風邪予防策】

- ①毎日ゆったりと睡眠をとろう。  
睡眠不足から来る疲れやストレスは、風邪に対抗する免疫の働きを弱めるそうです。
- ②偏食、暴飲、暴食をしない。
- ③毎日、身体をきたえよう。
- ④極端な厚着・薄着をしない。
- ⑤手洗い・うがいをしよう。
- ⑥乾燥したところや人混みはさけよう。

風邪の予防法等について、たくさんの情報がありました。各ご家庭でも色々な風邪予防の情報をお持ちだと思います。「風邪予防の極意」的なものを教えてください。もし、子どもさんが風邪気味でしたら、決して無理をさせず、もちろん登校させないでください。「少々だから大丈夫」と思っている、クラスの中では、その風邪を拡散する元になります。自分のみならず、みんなが風邪引きになることも予想されます。

これから益々寒暖の差が激しくなります。汗をかいたときなど、直ぐに着替えるなどの対策も必要かと思えます。互いに健康維持に最大の留意をしましょう。

学校で体調が悪くなった場合、パトロール室で様子を看ますが、1時間以上経ったも回復しない場合、ご家庭に連絡して迎えに来ていただきます。

◆パトロール当番予定表11月12日◆

～よろしくお願ひします～

	学年	順位	児童生徒氏名	
★AM1リーダー	小1	10	木村 榛	
		11	副田えみり	
		12	田中彩乃	
		13	チャン キャサリン	
		14	浪花香織子	
		15	プライス敦子	
		16	大迫侑生	
★PM1リーダー	小1	17	岡本大洋	
		19	チャンドラー虎	
		20	野田優綺	
		21	浅川雄士	
		22	ミトラ海	
		小2	4	佐藤龍之介
		小1	26	原田あゆみ
転入	宇津澤 悠(小1A)、宇津澤 元(小1B)			

転入を歓迎します。頑張ってください。